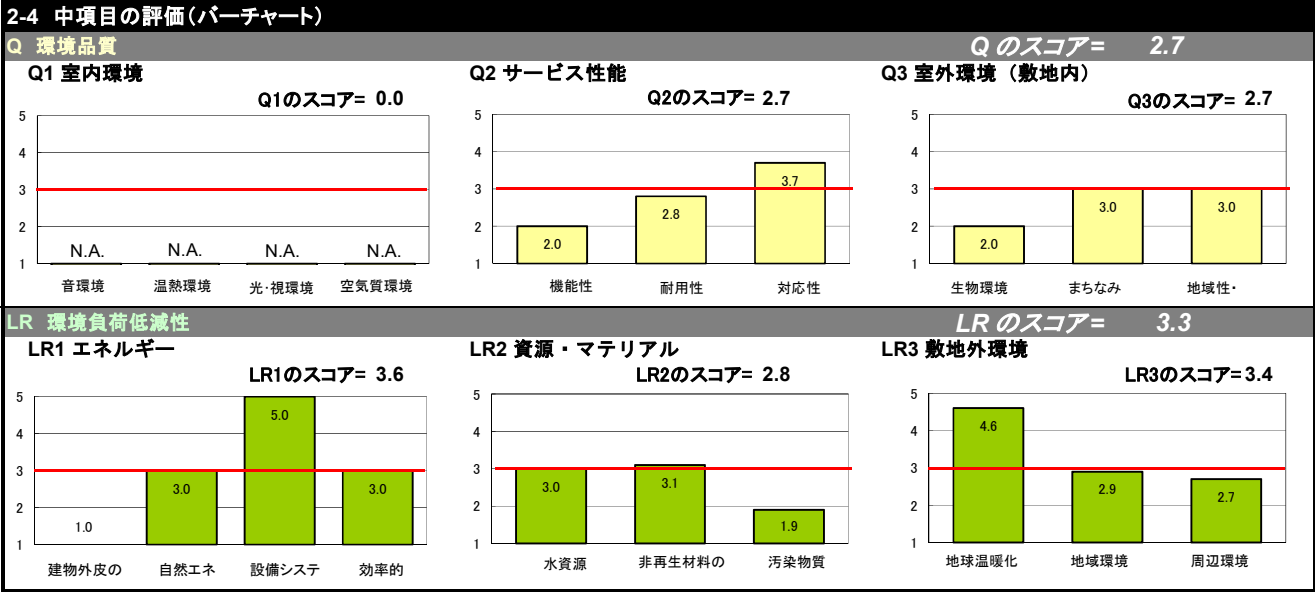
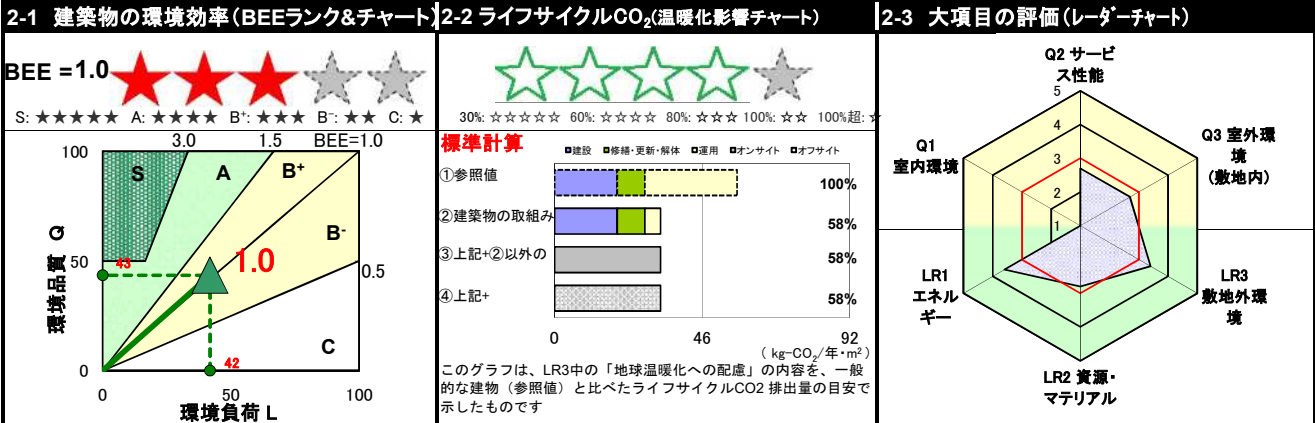


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	刑部化工有限会社 新工場	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中央区馬郡町23-2	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 用途指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,285 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年10月23日
敷地面積	4,888 m ²	作成者	片山友見
建築面積	2,364 m ²	確認日	2024年10月23日
延床面積	3,743 m ²	確認者	松尾崇充



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。 耐久性のある素材選定をシランニングコストを抑えて、環境品質も向上するよう努めています。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
評価対象外	階高や平面空間に余裕を持たせ、将来の多様化にも対応できるように配慮をしています。	敷地の境界には緑地帯を設け、建物の外観は景観条例を遵守し、周囲の環境に配慮しています。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用し、省エネに努めています。	節水型の機器を採用し水資源に配慮しています。	一般的な環境基準をクリアするようにしています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要											
建物名称	刑部化工有限会社 新工場				BEE	1	BEEランク	B+	★★★		
2. 重点項目への取組み度											
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価				
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.5	/5					ふつつ				
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.5	/5					がんばろう				
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.8	/5					ふつつ				
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8	/5					がんばろう				
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例		よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満		
3. 重点項目についての環境配慮概要											
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目						
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		3.5				
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④仕上材 ビニルシート、石膏ボード等				Q-1	2	2.1 2.1.2	①	外皮性能		
					Q-1	3	3.1 3.1.3	②	昼光利用設備		
							3.2 3.2.1	③	昼光制御		
					Q-2	2	2.2 2.2.1	④	躯体材料の耐用年数		
							2.2.2 2.2.3	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
							2.2.4 2.2.4	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
							2.2.5 2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
							2.2.6 2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)				Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出		
						3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨省エネルギー計算 工場モデルで照明設備のみを計算対象とし、BEI0.17				LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
						2		⑧	自然エネルギー利用		
						3		⑨	設備システムの高効率化		
						4	4.1	⑩	モニタリング		
							4.2	⑩	運用管理体制		
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬鉄骨躯体を塗装仕上げとする				LR-2	1	1.1	⑪	節水		
							1.2 1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無		
							1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
					2	2.1		⑫	材料使用量の削減		
						2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用		
						2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
						2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
						2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材		
						2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
					3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用		
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭CO2排出率が58%				LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮		
						2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		
	”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.5			
		■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)				Q-2	2	2.1 2.1.1	⑯	耐震性	
								2.1.2	⑯	免震・制振性能	
					2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備			
						2.4.2	⑰	給排水・衛生設備			
						2.4.3	⑰	電気設備			
						2.4.4	⑰	機械・配管支持方法			
						2.4.5	⑰	通信・情報設備			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		3.8				
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳外周長さ186.0m 耐力壁27.6m 専用面積1,941.9㎡				Q-2	1	1.1 1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画		
						3	3.1 3.1.1	⑲	階高のゆとり		
							3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ		
					Q-3	3	3.1	⑲	地域性への配慮、快適性の向上		
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.8				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)				Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出		
						2		㉓	まちなみ景観への配慮		
						3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮風通しのよい建物配置とする				LR-2	2	2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
					LR-3	2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		